

#大学教員の日常も大変だ

第10期OB 石井 隆太

世界中のあらゆる人々がコロナウイルス拡大の影響を受けているわけですが、ここ大学業界の人々も例外ではありません。2020年4月には、例年どおりの授業スタートは切れず、大学生はもちろんのこと、大学教員や事務職員も自宅待機を命じられ、オンキャンパス授業（対面授業）から、オンライン授業（遠隔授業）へと移行しました。感染が収束傾向にあった秋以降は、ゼミをはじめとする一部の少人数授業には、オンキャンパスを取り入れつつ、その他の講義形式の授業は、リアルタイムの遠隔授業ないしオンデマンドの動画配信を継続した大学・大学教員が多数だったように思います。SNS上においては、「#大学生の日常も大事だ」というハッシュタグのもと、小中高と異なり、大学のみが遠隔授業を続けていることに反発する大学生がいる一方、対面授業を部分的に再開すると発表したら、「#大学に行きたくない」というハッシュタグのもと、旅行や飲み会を平気で続けている大学生と対面で接したくないと主張する大学生もいました。実際、対面授業と遠隔授業のどちらを希望するかについて、大学生にアンケートをとってみると、概ね、半分ずつという結果になることが多いようです。どちらを希望しているにせよ、完全に満足いく大学生活を送れなかった大学生が多かったことでしょう。

苦しんだのは、大学生だけではなく、大学教員も苦労しました。学生の顔すら見たことのない状況で、どんなスピードとレベルで授業を進めてよいか分からずに悩む新任教員から、過去30年間、板書で講義を進めてきたけれど、遠隔授業に伴ってパワーポイントを準備しないといけなくなったベテラン先生まで、四苦八苦しました。かくいう私も、オンデマンド動画配信の授業では、録画ボタンを押していないことに気が付いて撮りなおし、録画途中で宅配便が来て撮りなおし、挙句の果てには、ビデオ配信の設定を誤って配信できず、そんな日々でした。「#大学教員の日常も大変だ」と言ったところでしょうか。

さて、今年度は、そんなコロナの影響で激動の1年だった一方で、私にとっては、大学教員2年目という意味でも激動の1年でした。激動だったのは、研究・教育活動で色々とチャレンジできた充実した1年だったからです。下記では、その中でも、論文執筆とゼミ教育の2点を振り返ってみたいと思います。

◆英語論文がアクセプトされました！

この読者の皆さまの多くは、小野ゼミに入会し、三田論や卒論に取り組んでいる最中には、英語で書かれた既存研究を読むことが多かったのではないのでしょうか。私も、三田論チームの発足後、はじめに読んだ論文は、英語で書かれたものでした。当時の自分に、その内容がどれだけ理解できていたのかはかなり怪しいのですが、何となく「凄いなあ」と思ったことは記憶しています。斬新な研究アイデアについて

英語というグローバルな言語で書かれていて、公刊された論文が、自分と同じように世界中の人々に読まれているということに、感銘を受けたのではないかと思います。そんな原体験があるため、自分も、いつかは何とか英語で論文を書きたいなあと考えていて、博士課程に進学してからは、英語での論文公刊を目指してきました。しかし、そんなに沢山の論文を書いた経験がなく、論文執筆自体に不慣れなのに、英語という語学の問題も加わってしまい、論理と語学の二重苦に悩まされました。結果として、小野先生には、沢山のご迷惑をおかけしてしまったのですが、先生のご指導の甲斐があって、2020年の間に、3本の論文が、海外の学術雑誌でアクセプトされるに至りました。英語論文であれば、世界中の研究者の中から選ばれた、自分の専門と極めて近い研究者に査読審査を担ってもらうことができ、審査の過程でもらえるコメントやアドバイスは、どれも非常に役立つものでした。論文をどの言語で書くのかは、研究の本質とは全く無関係ですが、英語で論文を書き、海外雑誌に掲載されることで、世界中の研究者たちとコミュニケーションを採ることができるのは、とてもエキサイティングです。これからもコツコツと書き続けようと思います。

◆ゼミの2期生を迎えました！

今年度から、石井ゼミ2期生8名を迎えました。昨年、2期生を募集する際には、「英語論文の輪読」と「実証分析の実施」の2点を、ゼミの特色としてアピールしました。そんなエグそうなことを謳っているゼミは、他にありませんでしたので、学生にとっては応募のハードルが高かったように思いますが、それでもやる気のある8名が入会してくれました。しかしながら、周知のごとく、コロナ禍で



ゼミ2期生とゼミコンの表彰式にて（著者は後列右端）

夏休みまではオンラインゼミになってしまいました。夏休みが明けて、10月からは、福井ではそれほど感染者が出ていなかったため、大学の方針に従って、12月まではオンキャンパスにてゼミを実施しました。2チーム体制でグループ研究に取り組んで、12月に開催された学内の合同研究発表会（正式名称はゼミナールコンテスト、通称“ゼミコン”）では、優勝、準優勝、審査員賞と、有難いことに数多くの榮譽に浴することができ、地元のラジオにも出演することになったようです。ゼミでの経験を1つの自信にしてもらって、就職活動を頑張りたいと願うばかりです。

さて、末筆になりますが、来年度からは、2年間お世話になった福井県立大学を出て、立命館大学の経営学部に移籍することになりました。第7期OGで妻の菊盛さんと同じ職場になります。文字どおり公私共々、仲良く楽しく頑張りたいと思います。